

暫定版

RevN-2024/1/9
PDF暫定版(正式教材配布前)

**2024年 MMC 中小企業診断士
第2次試験合格対策 合格1帖—G10**

合格記述解法帖

組織・流通・生産・財務 記述解法

帰納的事例解法

合格3カリキュラム

記述解法修得・記述復習・実践記述

合格3帖

記述解法帖・記述復習帖・再現答案帖

合格4ツール

合格解答型

合格設問FC

合格因果KM

合格記述FC

MMC

Master of management corporation

MMC2024年合格講座

合格記述解法帖

Power pint Version

中小企業診断士 合格実績ならMMC

MMC

Master of management corporation

MMC 2024年合格講座

講座・教材の大幅な刷新

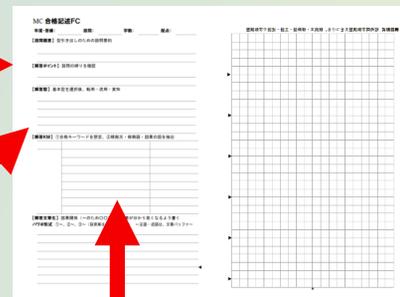
合格3カリキュラム

- ①合格記述解法修得(前期)
- ②合格記述復習練習(中期)
- ③合格実践記述取組(後期)

MMC ⑧合格設問 F C



MMC ⑩合格記述 F C



合格4ツール(合格解答メモ)

- ④合格解答型
- ⑤合格設問FC
- ③合格因果KM
- ④合格記述FC

MMC ⑨合格解答型



MMC ③合格因果 K M



MMC 2024年合格講座

講座・教材の大幅な刷新

合格5帖(主要3帖 ① ② ③)

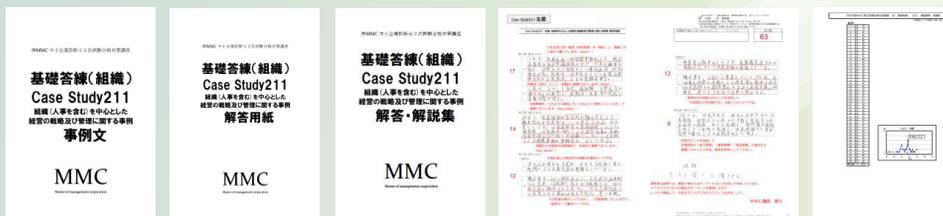
- ①合格記述解法帖
- ②合格記述復習帖
- ③合格再現答案帖
- ④合格財務問題帖
- ⑤合格知識問題帖

本試6帖

- 本試全年事例文傾向帖
- 本試3年事例文帖
- 本試全年解答傾向帖
- 本試3年解答帖
- 合格記述復習帖(4事例用)

事例7教材

- 事例文
- 解答用紙
- 事例解答解説集
- PDF添削返却答案・再答案(1回)
- 詳細成績表(集計対象ライブ受講生)
- 質問シート
- 講師答案AD(答練答案はライブ生限定)



MMC 合格心構

- 目標は、中小企業診断士合格であり学者ではない。
- 士(さむらい)資格取得であり学者知識修得ではない。
- 中小企業診断士合格者は、いつも同じ合格解答(解答型+因果KM)を神速記述している。
- 熟考し尽くした論文解答ではなく、いつもの合格解答を試験時間内に書く。

MMC 合格3カリキュラム

①合格記述解法修得(前期)

⇒合格解答メモ(解答型+因果KM)で合格解答記述
いつもの合格答案を書く記述力修得。

②合格記述復習練習(中期)

⇒合格記述復習練習で記述を神速化する。

③合格実践記述取組(後期)

⇒答練・模試で合格実践記述に取り組む。

MMC 教材一覽

	教材名	冊子No	部数・冊数	製本・PDF・製本Op	講座	重要度
合格5帖	㉔合格記述解法帖	合格1帖G10	1冊	製本+PDF	通期	◎
	㉕合格記述復習帖(各事例用・汎用)	合格2帖G21~25	4事例4冊+汎用1冊	製本+PDF+製本Op	通期	◎
	㉖合格再現答案帖(合格者編・得点順編)	合格3帖G30	ダイジェスト1冊+本帖PDF	製本+PDF	通期	○
	㉗合格財務問題帖(基礎編・応用編)	合格4帖G41~42	問題帖・解説帖2冊	製本+PDF	自主学習	◎
	㉘合格知識問題帖(組・流・生)	合格5帖G51	3事例1冊	製本+PDF	自主学習	△
本試6帖	本試全年事例文傾向帖	本試1帖H10	4事例4冊	製本+PDF	前期Cs1	○
	本試全年解答傾向帖+出題傾向表	本試2帖H21~24	4事例4冊	製本+PDF	前期Cs1	◎
	本試3年事例文帖	本試3帖H31~34	4事例4冊 各事例2部	製本+PDF	前期Cs1	○
	本試3年解答用紙帖	本試4帖H41~44	4事例4冊 各事例3部	製本+PDF	前期Cs1	○
	本試3年解答帖(+合格解答メモ・成績表・解説)	本試5帖H51~54	4事例1冊 各事例1部	製本+PDF	前期Cs1	○
	合格記述復習帖(4事例用)	合格2帖G26	4事例1冊	製本+PDF+製本Op	前期Cs1	◎
事例3教材	事例文	Cs211~	4事例1冊 各事例2部	製本+PDF	通期	○
	解答用紙	Cs211~	4事例1冊 各事例2部	製本+PDF	通期	○
	事例解答解説集+合格解答メモ	Cs211~	4事例1冊 各事例1部	製本+PDF	通期	○
副教材	講義取説帖	—	1冊+PDF	製本+PDF	参考用	×
	基礎知識集マスターテキスト	—	1PDF	PDF+製本Op	参考用	×
	本試事例文集(全年度)	—	4事例4PDF	PDF+製本Op	参考用	×
	本試解答解説集(全年度)	—	4事例4PDF	PDF+製本Op	参考用	×

MMC 合格5帖 (教材)

①合格記述解法帖(帰納的事例解法)

帰納的事例解法は合格者合格答案を重視。

演繹的事例解法は、第1次試験知識や出題者著書など知識重視。

合格4ツール

①合格解答型

②合格設問FC

③合格因果KM

④合格記述FC

合格3ツール(① ② ③)は、MMC受講生の再現性の高い合格再現答案を反映
合格3ツール(① ② ③)と④合格記述FCで合格解答を神速記述する。

②合格記述復習帖(各事例4冊+汎用1冊)

三段階の記述復習法：神速記述復習 → 無想転生記述復習 → 凧記述復習

とにかく速く(神速記述)、次に設問に惑わされず(無想転生記述)、

最後に事例文に惑わされず(凧記述)で、安定合格解答記述力を修得する。

記述復習帖は、4単事例用+全4事例用+汎用の6種。

③合格再現答案帖(合格者編・事例別得点順編 主PDF版)

合格者別編

→お手本合格先輩答案を選ぶ

過去の再現性の高いMMC受講生の合格答案を知り選び真似る。

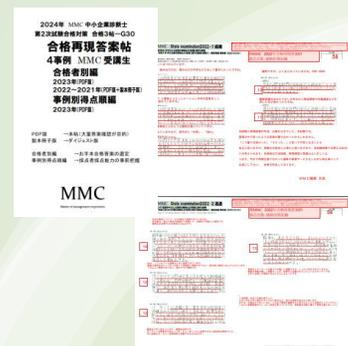
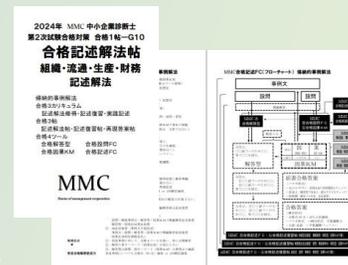
知識偏重・理論最高理想論主義的答案は参考にしない。

事例別得点順編

→採点者採点能力を事前把握し、合格答案要件を知る。

採点者採点能力・採点手間掛け具合を知り、どこまで書けばいいのかわかる。

キーワード採点は事実上不可能で、得点序列は分かりやすく読みやすいで判断。



MMC 合格5帖 (教材)

④合格財務問題帖

2編(基本編・応用編)の計算問題集。

日常の財務計算練習帖として使用。

応用編は、余裕がある場合に取り組む。合格には不要の高難易問題。



⑤合格知識問題帖

合格因果KMの基本キーワードを問題帖としてまとめたもの。

基礎知識集(マスターテキスト)の問題帖形式。

合格知識問題帖解答の確認で十分で、

基礎知識集(マスターテキスト)熟読は不要。

組織・流通・生産の第1次試験レベル基礎キーワードの確認。

主に解答を見て、専門キーワードへの慣れを目的とする。

解答から確認して、各事例の基礎専門キーワードに慣れておく。

第一次試験知識・キーワード確認用問題集



MMC 本試6帖

■本試全年事例文傾向帖

合格因果KMの作成考えの元帖のようなもの。基礎講義(Cs1)で使用。
本試験事例文・設問の出題傾向を把握
本試事例文中の合格因果KM果Kに使えるキーワードの確認
事例別に年度不変で使える合格SWOT分析



■本試全年解答傾向帖(＋出題傾向表)

本試全年の模範解答解答集。設問の出題傾向表を添付。基礎講義(Cs1)で使用。
合格因果KM・因果Kを充実させる際、辞書代わりに使用。



■本試3年事例文帖

直近3年分の第二次試験事例文集。復習用を含め、各年度2部製本冊子



■本試3年解答帖(模範解答・合格解答メモ・解説・MMC2成績表)

直近3年分の模範解答、合格解答メモ、根拠事例文の解説集
MMC版二次(再現答案添削)成績表を添付。実際の解答レベルを把握(特に財務復習時に有効)



■本試解答用紙帖(3年)

本試験解答用紙を3部製本冊子
合格記述FC復習後に、三段階の記述復習に合わせて実解答用紙に解答再現記述復習する。



■合格記述復習帖(4事例＋汎用 組・流・生・財・汎)

1試験(組・流・生・財・汎)の記述復習用の記述復習帖
本試(4事例)、模試(4事例)の記述復習用の記述復習帖



MMC 答練・模試 事例7教材

・事例文

答練・模試の事例文。復習用を含めた事例文2部製本冊子

・解答用紙

答練・模試の解答用紙。復習用を含めた解答用紙2部製本冊子

・事例解答解説集

答練・模試の模範解答・合格解答メモ・解説

・PDF添削返却答案・再答案(1回)

約1週間後の迅速なPDF添削返却、再答案(1回 MMC受講生限定)

・詳細分析成績表

ライブ受講生を対象に成績表を作成

総合計点に加え、設問毎に得点集計。

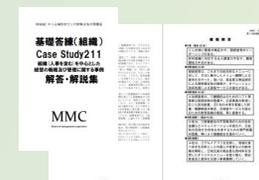
設問別得点集計は、財務で捨て問判断が迅速に可能

・質問シート

疑問点は、質問シートで。PDF提出・返却で迅速な回答

・講師答案AD(答練答案はライブ生限定)

採点者に伝わり難い箇所を講師が親切丁寧にアドバイス



MMC 副教材

・講義取説帖

マイページ取扱説明書、Zoom取扱説明書、答案PDF化手順書、
質問シート提出要領

・基礎知識集 マスターテキスト

→PDF(製本Op有)

4事例の基礎的知識テキスト。

答練キーワードの辞書的テキスト。講座では使用頻度少。

・本試事例文集(全年度)

→PDF(製本Op有)

新制度本試験(2001年)からの直近年までの事例文集

・本試解答解説集

→PDF(製本Op有)

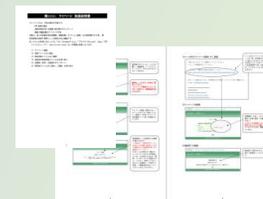
新制度本試験(2001年)からの直近年までの模範解答解説集

※直近4年以前は、合格解答メモ無し。

・事例別記述復習帖5冊セット(予備販売) →製本Op

・試験別記述復習帖5冊セット(予備販売) →製本Op

合格記述復習帖(組・流・生・財・汎用×各1)、実践記述復習帖(1試験用×5)の
別売。事前教材の記述復習帖を使用完了した場合の予備的教材販売。
記述復習帖販売は、2024年MMC受講生に限定。



MMC 合格4ツール

合格4ツール(合格解答メモ)

①合格解答型

⇒合格者がいつも使っている解答型リスト

②合格設問FC

⇒合格者がいつも使っている体系図

合格因果KMのFC版

③合格因果KM

⇒合格者がいつも使っている

因果キーワードマトリックス

④合格記述FC

⇒合格3ツールを使用した

合格解答の記述フローチャート

①合格記述解法修得(前期)

MMC ①合格解答型



MMC ③合格因果KM

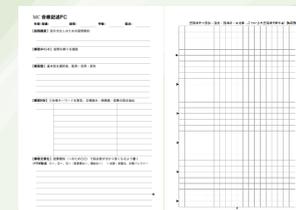


因果関係	キーワード	キーワード	キーワード	キーワード	キーワード
原因	原因	原因	原因	原因	原因
結果	結果	結果	結果	結果	結果
原因	結果	原因	結果	原因	結果
結果	原因	結果	原因	結果	原因

MMC ②合格設問FC



MMC ④合格記述FC



MMC 合格解答とは？

①合格記述解法修得（前期）

- ・分かりやすさ ⇒ 因果KM(キーワード・マトリックス)
- ・見栄え ⇒ 解答型
- ・短時間記述(納期・試験時間厳守) ⇒ 解答メモ(因果KM+解答型)での記述

因果KMで、～のため〇〇、と分かりやすく記述

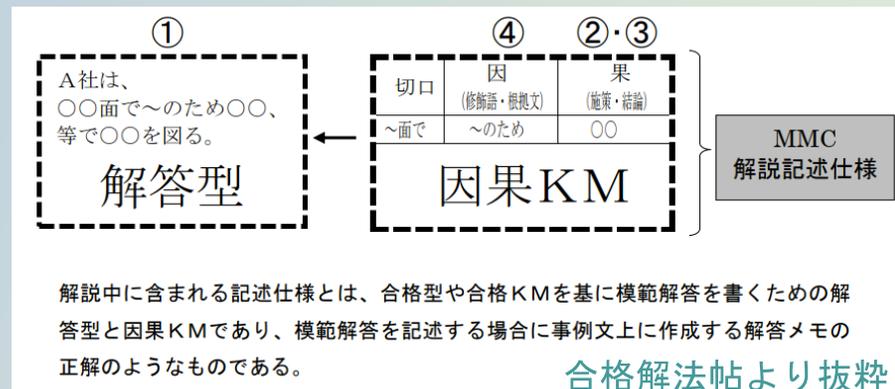
解答型で、見栄え(主語・述語・No)を読みやすくする。

解答メモ(解答型+因果KM)は、合格解答の短時間記述のため作成する。

解答文章化は、因果KMを解答型に入れ込み、パズル組立のように考える。

解答メモ

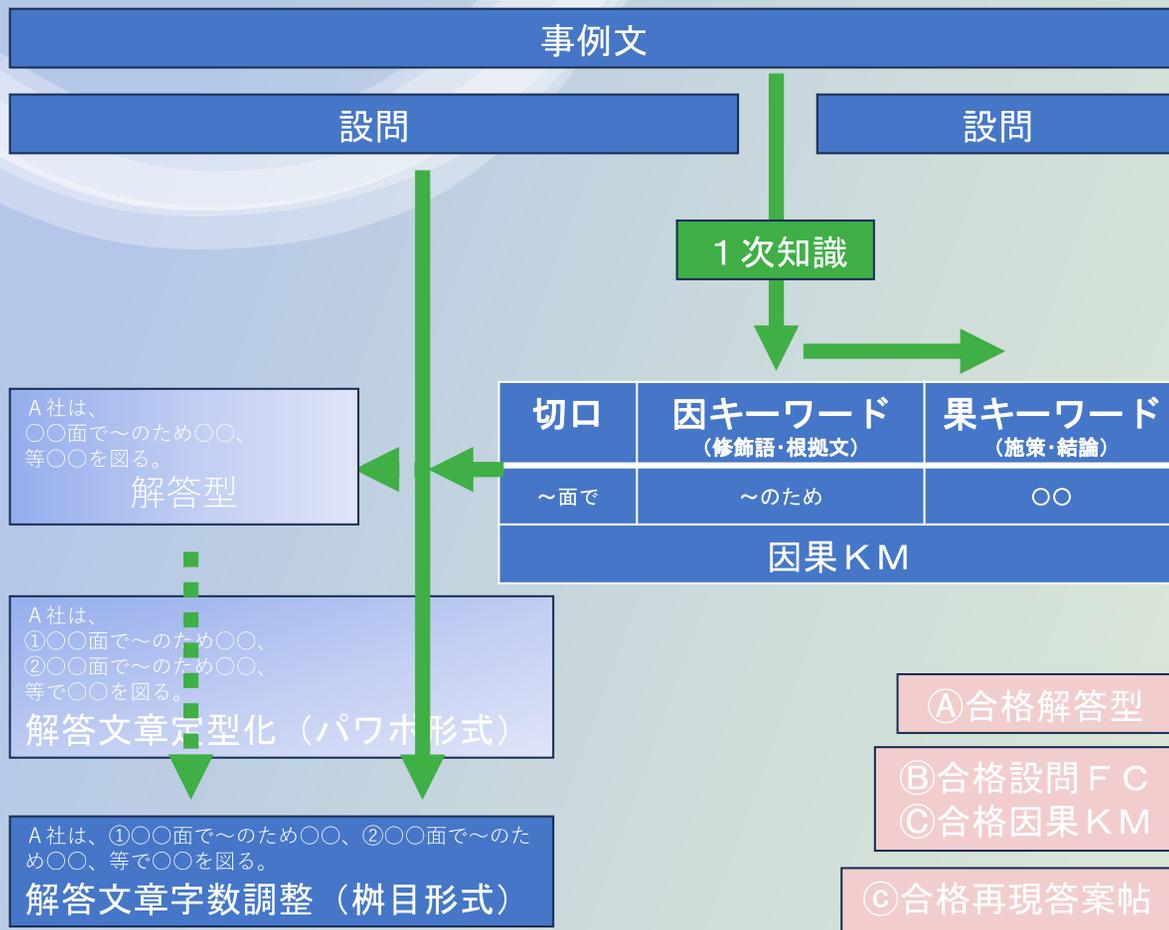
(解答型+因果KM)



MMC 合格記述 F C

演繹的事例解法

①合格記述解法修得（前期）



帰納的事例解答(MMC解法)

合格答案ありき

演繹的事例解法(一般分析解法)

事例文ありき

果因で準備し、因果で書く

合格者知識を事前準備、短時間記述
試験解答向き

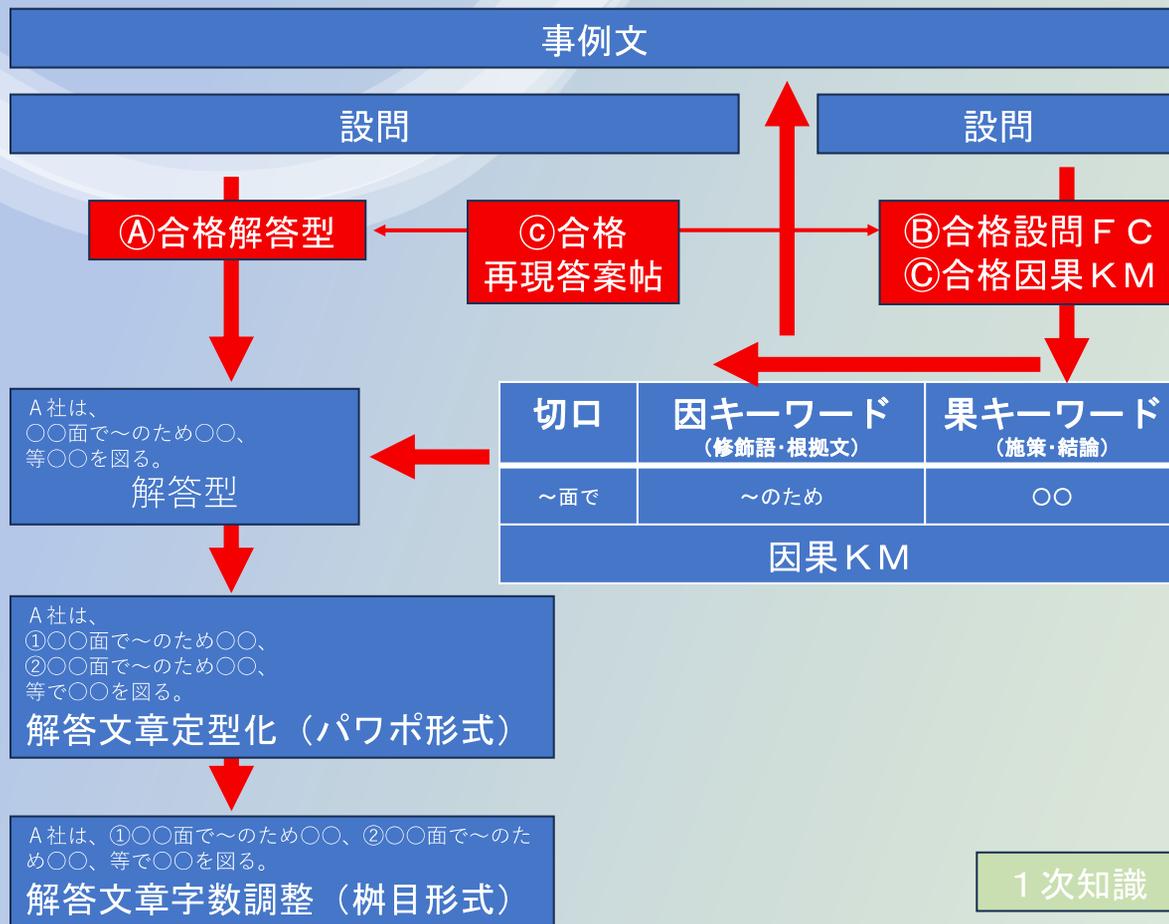
因果で解き、因果で書く

学者知識で、長時間記述
論文解答向き

MMC 合格記述 F C

帰納的事例解法

①合格記述解法修得（前期）



帰納的事例解答(MMC解法)

合格答案ありき

演繹的事例解法(一般分析解法)

事例文ありき

果因で準備し、因果で書く

合格者知識を事前準備、短時間記述
試験解答向き

因果で解き、因果で書く

学者知識で、長時間記述
論文解答向き

MMC 記述復習

②合格記述復習練習（中期）

②合格記述復習帖

三段階の記述復習法 神速記述復習 → 無想転生記述復習 → 凧記述復習

とにかく速く(神速記述)、
次に設問に惑わされず(無想転生記述)、
最後に事例文に惑わされず(凧記述)で、安定合格解答記述力を修得する。

第1段階 神速記述復習

模範解答から、解答メモ(解答型・因果KM)作成し、模範解答を復元記述

第2段階 無想転生記述復習(設問不惑記述)

設問・解説事例文から、解答メモ(解答型・因果KM)を仮想し、模範解答を復元記述

第3段階 凧記述(事例文不惑記述)

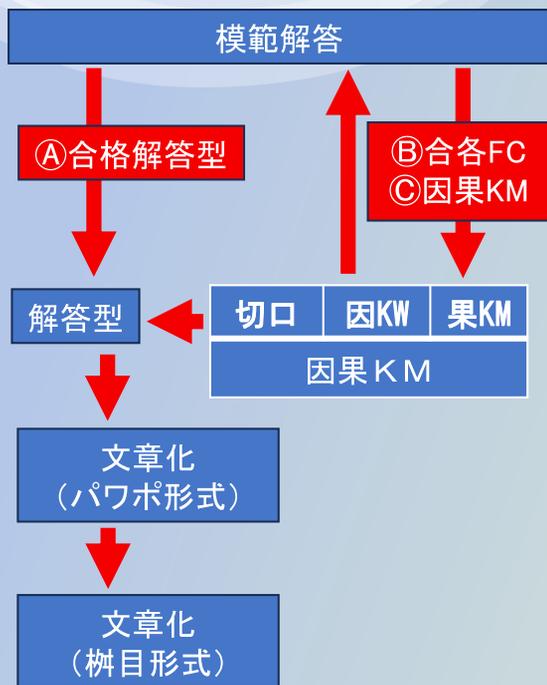
設問・事例文から、解答メモ(解答型・因果KM)を仮想し、模範解答を復元記述

MMC 合格記述復習

合格記述復習流れ

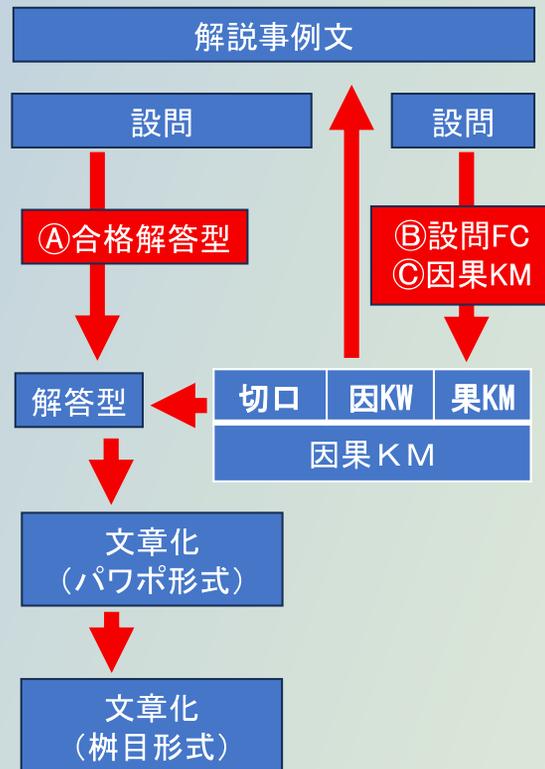
- ①合格記述解法修得（前期）
- ②合格記述復習練習（中期）

神速記述復習



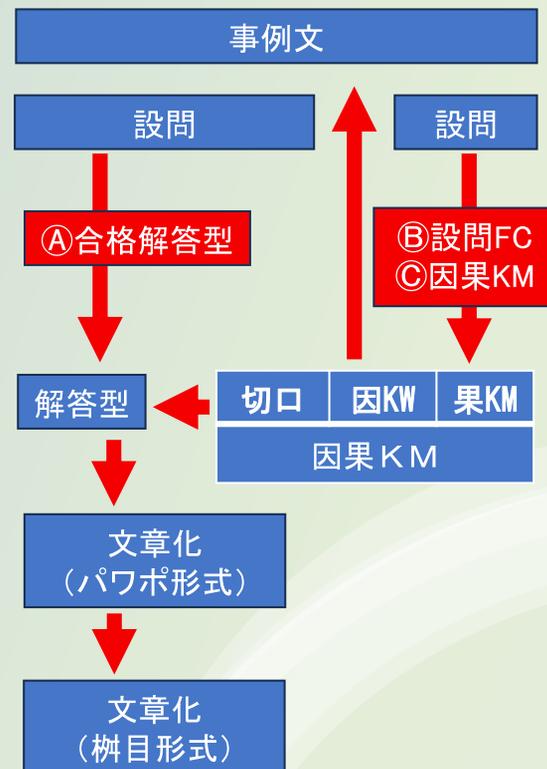
所要時間：初回6hr～最終10min/1問

無想転生記述復習（設問不惑）



所要時間：初回60min～最終12min/1問

尻記述記述復習（事例文不惑）



所要時間：初回30min～最終14min/1問

MMC 合格記述復習

合格記述復習時間

- ①合格記述解法修得（前期）
- ②合格記述復習練習（中期）

本試験合格解答
一発記述
書き直し無し
再検討無し

試験時間

80min

解答記述
文章定型化
字数調整
50min
5問×10min

設問
解答型仮想
解答メモ仮想
5min
5問×1min

事例文
根拠見出し
因果整合性確認
15min
5問×3min

見直し
誤字・脱字
10min

模範解答

解答メモで模範解答復元
文章定型化（パワポ形式）
字数調整（柵目形式）

神速記述復習

6hr→最終10min/1問

設問・解説事例文

解答型仮想
因果KM（果K）仮想

無想転生記述復習（設問不惑）

60min→最終12min/1問

設問・事例文

因果KM（因K）見出し
因果整合性確認

凧記述記述復習（事例文不惑）

30min→最終14min/1問

帰納的事例解法
記述復習フロー
演繹的事例解法
記述復習フロー

MMC 合格記述復習

合格記述 F C

- 神速記述復習 : 模範解答 → 模範解答 最終10min
- 無想転生記述復習 : 設問・解説事例文 → 模範解答 最終12min
- 凧記述復習 : 事例文・設問 → 模範解答 最終14min

MMC◎合格設問 F C MMC Ⓐ合格解答型

MMC ⓐ合格記述 F C

MMC◎合格設問 F C

年度	設問	解答型
平成27年度	設問100字	①設問題意
平成28年度	設問100字	②解答型
平成29年度	設問100字	③果K
平成30年度	設問100字	④因K
平成31年度	設問100字	⑤パワポ形式

MMC Ⓐ合格解答型

年度	設問	解答型
平成27年度	設問100字	①設問題意
平成28年度	設問100字	②解答型
平成29年度	設問100字	③果K
平成30年度	設問100字	④因K
平成31年度	設問100字	⑤パワポ形式

MC 合格記述FC 設問100字

年度・各種別: 設問

【設問趣意】型引き出しのための設問要約

【解答ポイント】設問の縛りを確認

【解答型】基本型を選択し、転用・流用・変形

【解答KM】①合格キーワードを想定、②根拠文・論拠語・因果の因を抽出

【解答文章化】因果関係(～のため○○)で採点 ①が分かり易くなるよう書く
パワポ形式 ①～、②～、③～(設問は～、理由は～、主題・述は、文章タイプ～)

事例文

事例文

解説事例文

解説事例文

MMC◎合格因果 K M

MMC◎合格因果 K M

年度	設問	解答型
平成27年度	設問100字	①設問題意
平成28年度	設問100字	②解答型
平成29年度	設問100字	③果K
平成30年度	設問100字	④因K
平成31年度	設問100字	⑤パワポ形式

凧記述復習

無想転生記述復習

神速記述復習

- ②合格記述復習練習 (中期)
- ③合格実践記述取組 (後期)

A社は、①○○面で～のため○○、②○○面で～のため○○、等で○○を図る。



A社は、
①○○面で～のため○○、
②○○面で～のため○○、
等で○○を図る。

MMC 実践記述

②合格記述復習練習（中期）

③合格実践記述取組（後期）

・答練事例

⇒合格点(60点)安定確保

・模擬試験

⇒合格順位(20%)安定確保

個別事例得点より総合計得点を重視。

・財務ゼミ

⇒合格計算力の自己研鑽

ファイナル財務

解説数値のみで計算必要最小時間を計測

最小計算時間が15分以上のものは、捨て問と断捨離

断捨離:分からない問題ではなく合格にいらぬ捨て問題

合格条件(合格点60点 or 合格順位20%)の安定確保を目指す。

高得点取得を目指さない。

不必要な高得点を目指すことは、無駄な知識を増やし合格の足枷となる。

帰納的事例解法の試験中での実践練習

演繹的事例解法は、合格後、実務補習で行うと心得る

合格解法帖より抜粋

MMC 合格再現答案 模範解答

合格再現答案

- ・MMC採点のついた合格答案をそのままの状態を確認し、直感で選ぶ。
- ・真似させてもらうように見る。
- ・財務答案は、正解度合いをチェックすること。
- ・MMC合格再現答案は再現性が非常に高いことを認識。
- ・MMC 基本解答型・基本キーワードでの合格可能性の証明答案と感謝する。
- ・合格答案に感謝することである。それで合格できると示してくれているのである。
- ・出来過ぎた模範解答は、試験対策上、捏造・偽造・詐欺的な合格再現答案と考えても良い。

MMC模範解答

- ・模範解答は、記述復習の練習材料。
- ・MMC模範解答は、解答型＋因果KMで作成されているので、記述復習がやりやすい
- ・答練時は、模範解答を目指さない、合格解答メモ・合格記述FCで合格条件の確保を考える。
- ・無意味・無目的な記述復習は行わない。
(字数だけの記述訓練、キーワード難易度の高度化等) →余計に無駄な記述力を高める

MMC 最後に

ここまで読み進めた受験生は、即時にMMC記述解法を実践しよう。

合格目標は中小企業診断士、学者になるのではない。

神速で合格解答を書く覚悟を決め、最高至高答案は不要と安心しよう。

学者的解答は不要であり、毎日、合格解答の神速記述を意識しよう。

決して悩まず恐れず確固たる事前準備を行い、事例文・設問に惑わされない、

いつもの合格答案をいつでも神速記述で書く練習をしよう。

合格答案は、いつも同じなのだから、事例文・設問で悩むのは無意味である。

考える必要はなく、記述速度を神速化し、単位時間あたりの合格解答を数多く

正確無比で書けば、それで合格してしまうのである。。

他の誰でもものない貴方の中小企業診断士合格を確信しながら。

MMC 合格心構・合格3カリキュラム・合格5帖・本試5帖・合格4ツール

合格心構え

目標は、中小企業診断士になるのであり、学者になるのではない。

士(さむらい)資格取得であり知識取得ではない。

合格答案はいつも同じ解答メモ(解答型+因果KM)で神速記述している。

熟考し尽くした論文解答ではなく、いつもの合格解答を試験時間内に書く。

神速記述が微差で合否を決める(基本問題の大量得点獲得)

捨て問は、分からないのではなく合格にいらぬ問題。

捨て問の積極的・瞬間的な断捨離力が必要。

短時間試験には多量基本問題の瞬発瞬間即答力が必要、分析は不要。

合格に必要なのは、合格者の断捨離後解答知識と瞬発瞬間即答力

第一次知識は第二次合格に不要、持ち過ぎは足かせになる。

MMC合格3カリキュラム ⇒合格記述解法修得・合格記述復習練習・合格実践記述取組 (前期) (中期) (後期)

- ・①合格記述解法修得 ⇒解答型+因果KMでいつもの合格答案を書く記述力修得。
- ・②合格記述復習練習 ⇒合格記述復習練習で記述を神速化する。
講師答案アドバイスで答案の弱点を知る。
(独りよがりの見方にならない)
- ・③合格実践記述取組 ⇒答練・模試で合格実践記述に取り組む。
講師答案アドバイスで答案の弱点を知る。
(独りよがりの見方にならない)

MMC合格5帖(教材) ⇒合格記述解法帖・合格記述復習帖・合格合格再現答案帖

・①合格記述解法帖

帰納的事例解法は、合格者合格再現答案を重視。

演繹的事例解法は、第1次試験知識や出題者著書など知識重視。

合格4ツール ①合格解答型 ②合格設問FC ③合格因果KM ④合格記述FC

FC (フローチャート)、KM (キーワードマトリックス)

MMC受講生の再現性の高い合格再現答案で、①合格解答型、②合格設問FC、③合格因果KMを作成。

合格3ツールで合格記述FCに従い合格解答を神速記述。

- ・帰納的事例解法 ←合格答案はいつも同じ
- ・合格記述FC ←合格4ツールで合格解答記述
- ・合格4ツール ←合格者の因果KM・解答型

解答メモ(因果KM+解答型) = 合格解答(短時間で分かりやすい読みやすい)記述

・ ⑥合格記述復習帖

三段階の記述復習法:神速記述復習 →無想転生記述復習 →凧記述復習

とにかく速く（神速記述）、次に設問に惑わされず（無想転生記述）、最後に事例文に惑わされず（凧記述）で、安定合格解答記述力を修得する。

合格記述復習練習三段階で段階的に記述速度を神速化する。

・ ⑦合格再現答案帖

合格者編 →お手本合格先輩答案を選ぶ。

過去の再現性の高いMMC受講生の合格答案を知り選び真似る。

合格貢献が少なく試験時間中に記述が困難な知識偏重・理論最高理想論主義的 answer は、参考にしない。

合格者 answer で合格 answer を知る。（勝手に理想の合格 answer をつくらない）

合格 3 ツールの元 answer

事例別得点順編 →採点者採点能力を事前把握し、合格 answer 要件を知る。

採点者採点能力・採点手間掛け具合を知り、どこまで書けばいいのかわかる。

キーワード採点は事実上不可能で、得点序列は分かりやすく読みやすいで判断。

満身創痍で書いたキーワードも採点者には、見ている余裕がない。

短時間採点は、OK（合格 60 点以上）か、NG（不合格 59 点以下）しかできない。

※合格再現 answer 帖は、確認が主目的のため、PDF 版教材を主とする。

書き込み等の学習は不要で、大量 answer を見て傾向や要求を理解することが目的。

・ ⑧合格財務問題帖

2 編（基本編・応用編）の計算問題集。

日常の財務計算練習帖として使用。

応用編は、余裕がある場合に取り組む。合格には不要の高難易問題。

・ ⑨合格知識問題帖

合格因果 KM の基本キーワードを問題帖としてまとめたもの。

基礎知識集（マスターテキスト）の問題帖形式。

合格知識問題帖解答の確認で十分で、

基礎知識集（マスターテキスト）熟読は不要。

組織・流通・生産の第 1 次試験レベル基礎キーワードの確認。

主に解答を見て、専門キーワードへの慣れを目的とする。

解答から確認して、各事例の基礎専門キーワードに慣れておく。

MMC本試5帖

⇒㊤合格解答型・㊦合格設問FC・㊧合格因果KM・㊨合格記述FC

・本試傾向帖

合格因果KMの作成考えの元帖のようなもの。基礎講義（Cs1）で使用。

本試験設問出題傾向の把握

本試事例文中の合格因果KM果Kに使えるキーワードの確認

事例別に年度不変で使える合格SWOT分析

本試験模範解答集 →本試模範解答で良く使われている合格因果KM確認

・本試事例文帖（3年）

直近3年分の第二次試験事例文集。復習用を含め、各年度2部製本冊子

・本試解答解説帖（模範解答・合格解答メモ・解説）（3年）

直近3年分の模範解答、模範解答記述用解答メモ、根拠事例文の解説集

・本試解答用紙帖（3年）

本試験解答用紙を3部製本冊子

合格記述FC復習後に、本試験モードで実解答用紙に再現記述復習する。

・実践記述復習帖（1試験分 組・流・生・財・汎）

1試験（組・流・生・財・汎）の記述復習用の記述復習帖

本試（4事例）、模試（4事例）の記述復習用の記述復習帖

MMC答練・模試 事例7教材

・事例文

答練・模試の事例文。復習用を含めた事例文2部製本冊子

・解答用紙

答練・模試の解答用紙。復習用を含めた解答用紙2部製本冊子

・事例解答解説集

答練・模試の模範解答・合格解答メモ・解説

・PDF添削返却答案・再答案（1回）

約1週間後の迅速なPDF添削返却、再答案（1回 MMC受講生限定）

・詳細分析成績表

ライブ受講生を対象に成績表を作成

総合計点に加え、設問毎に得点集計。

設問別得点集計は、財務で捨て問判断が迅速に可能

・質問シート

疑問点は、質問シートで。PDF提出・返却で迅速な回答

・講師答案AD（答練答案はライブ生限定）

採点者に伝わり難い箇所を講師が親切丁寧にアドバイス

MMC合格4ツール

⇒**①合格解答型**・**②合格設問FC**・**③合格因果KM**・**④合格記述FC**

・ **①合格解答型**

⇒解答型仮想

合格者がいつも使っている解答型リスト

合格者に良くある設問に合わせた解答型をまとめたもの

・ **②合格設問FC**

⇒設問題意粗把握

合格者がいつも使っている設問題意把握のための体系図。

合格因果KM見出しのFC版。

・ **③合格因果KM**

⇒因果KM仮想

合格者がいつも使っている因果KM。

合格再現答案で多用されているキーワードをマトリックスでまとめたもの。

・ **④合格記述FC**

⇒合格神速記述

①合格解答型・②合格設問FC・③合格因果KMで合格答案を記述するFC。

合格答案を短時間で記述するための手順書。

MMC 合格記述FC(フローチャート) 帰納的事例解法

合格4ツールの確認



設問題意の把握



⑧合格設問FC図置付



解答ポイント



解答型



因果KM



解答文章化

パワポ形式
文章定型化



解答文章化

樹目形式
文章字数調整力



記述速度神速化



合格解答記述

記述復習



実践記述



安定合格解答記述力

④合格解答型・⑧合格設問FC・⑨合格因果KM
⑩記述FCの確認(基礎講座Cs1で合格4ツール説明)
設問要約で④合格解答型から解答型を仮想定

⑧合格設問FC位置付け
→⑨合格因果KM果K(キーワード)仮想定
因果KM因K(キーワード)を仮想定
設問の縛りを確認(時制、○○以外、等)

④合格解答型から基本型を選択後、転用・流用・変形

①: ⑧合格設問FC位置付・⑨合格因果KMで果Kの割振
②: 事例文・設問の根拠文確認(捏造防止 分析ではない)
③: 根拠文から因果KM因Kの抽出

①: 因果KM→解答型でパズル文章化
②: 因果関係(～のため○○)で採点者に、
分かりやすく読みやすくなっているかを確認。
③: ①～、②～、③～(投資案は～、理由は～)。
④: 主語・述語は、字数調整の文章バッファー。

①: 短時間字数調整力をつける。
②: 根拠文・修飾語・主語・述語で字数調整。

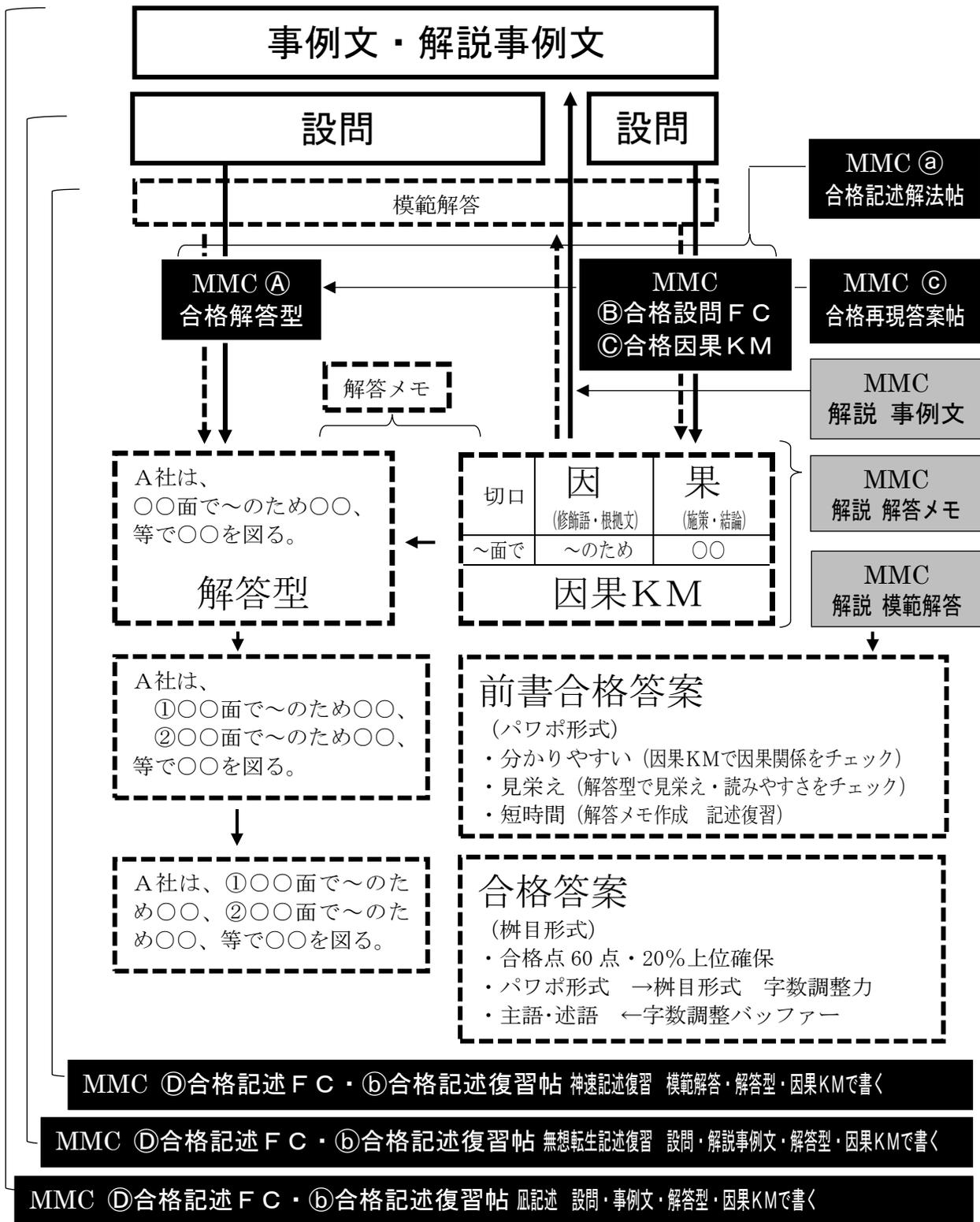
①: 100字10分目標
②: SWOT・戦略・オペレーション・情報等仮想し解答準備。
解答数を最大化。捨て問に時間を使わない。

②: 合格記述復習帖で繰り返し練習し神速記述
①: 達成目標は、合格点(60点)確保 or 20%順位確保。
事例の高得点解答を目標にしない。
②: 診断士合格解答を目標とし、学者向け解答は目指さない。

①: 神速記述復習(神速記述)
模範解答・解答型・因果KMで模範解答復元記述復習
文章定型化・文章字数調整
②: 無想転生記述復習(設問不惑記述)
設問・解説事例文・解答型・因果KMで模範解答記述復習
解答型・因果KM果K仮想
③: 風記述復習(事例文不惑記述)
事例文・設問・解答型・因果KMで模範解答記述復習
因果KM因K根拠見出し

①: 初見事例に対して、合格4ツールを使い、同じ合格解答
②: 解答の果キーワード(因果KM)は変わらない
③: 解答型は設問、因キーワード(因果KM)は事例文で確認
初見事例にいつでも合格点(60点)確保 or 20%順位確保

MMC合格記述FC(フローチャート) 帰納的事例解法



MMC合格記述FC(フローチャート)

MMC合格記述FC(帰納的事例解法)は、合格答案を事例文・設問文の分析(演繹的事例解法)で導くのではなく、合格解答型、合格因果KM(≒合格設問FC)、合格記述FCのMMC合格3ツールを元に解答メモ(解答型+因果KM)を作成し、合格記述FCの手順で合格解答を記述する。さらに記述復習帖で、記述速度を神速化し、合格力を向上させる記述法である。

MMC記述FC

MMCでは、事例解法(解答記述手順)を演繹的事例解法と帰納的事例解法の二つに大別している。MMC記述FCは、帰納法で考えると理解しやすい。つまり合格答案ありきで、「合格答案を短時間で記述するためには、どうすればよいか」という発想である。これに対して、「事例からどのような解答が書けるか」を考えるのが演繹的となる。

帰納的事例解法の記述FC

合格答案 → 解答メモ(解答型+因果KM) → 事例文根拠・設問題意の確認

合格再現答案ありき → 果因で準備し、因果で書く → MMC推奨短期間試験合格解法

復習時間・記述時間が短い、合格答案確認・記述速度を高める。

書くべき合格答案を、試験前に確認・準備し、神速記述する。

分かりやすく伝わる合格答案ありきで、その解答型と因果KMを見出す必要がある。そして、その解答も一般論にならないように、「事例文のどこを根拠文としているか、設問で聞かれていること・設問題意にどのようにして忠実にこたえているか」を合格解答から見抜くことである。すなわち合格解答をそのまま受け入れ、その解答型と因果KMを見抜く。そして解答型・因果KMの事例文根拠・設問題意のどこを利用したのか、と合格解答から事例文根拠・設問題意に遡る帰納的な考えを用いる。そのため、良くある合格解答だけ押さえておけば、如何なる事例文に対しても同じ合格解答が何時でも書ける。

参考までに演繹法で考えた記述FCは以下の流れとなる。

演繹的事例解法の記述FC

事例文根拠・設問題意の確認 → 解答メモ(解答型+因果KM) → 合格答案

事例文ありき → 因果で解き、因果で書く → 短期間試験合格には不向き的事例解法

研究熟考時間・記述時間が長い、研究の成果を試験で発揮、その場しのぎの記述速度。

事例文対する学者知識を、試験前に研究・熟考し、時間内記述を試みる。

こうなると、事例文分析を経て感想文に似た事例文分析・解答記述に留まってしまう。そのため、同じ事例文を複数回解いた時や、似たような事例文でもその時の学習量・気分などで解答が異なってくる。

また、「第二次試験合格には、第一次試験のしっかりした知識理解が、必ず必要」という誤謬にもつながることになる。MMC合格再現答案是、年度を通して同じようなキーワード・分かりやすい型しかなく、難解なキーワードを使用しているものは、ほとんどない。本物の再現率の高い合格答案の把握が出来ていないと、暗中模索・五里霧中で、第一次試験の難解なキーワードを使用するようになり、事例文根拠文や設問題意についても重箱の隅をつついたような誰も気が付かない点を指摘・解答記述するようになる。

採点者は、少なくとも受験生より知識レベルは上であるので、こうした勘違い系や使い方の間違えた解答には違和感を覚え、微差ながら低点数となる。不合格が、数回続くと、なかば「これでもダメか」という気持ちになり、自暴自棄的に誰も書かないような難解なキーワードしか使用しなくなり、高飛車・支離滅裂・意味不明な解答となり、さらに受験回数が増えるごとにその程度が酷くなっていくケースが多々ある。

帰納的事例解法で準備しておけば、合格解答が一つしかないため複数事例に対しても、一つの合格解答に対する事例根拠文探し・設問題意把握となるため、結果として書く解答にぶれがなく得点が安定している。

帰納的事例解法:1合格答案 →解答メモ(解答型+因果KM) →事例文根拠・設問題意の確認
演繹的事例解法:事例文根拠・設問題意の確認→解答メモ(解答型+因果KM)→複数答案

MMC記述FC(帰納的事例解法)の重要性・演繹的事例解法は身に着けないことの重要性

合格記述解法帖では、合格記述FCを説明している。MMC合格記述法は、帰納的事例解法を用いている。帰納的事例解法での合格記述法を身に着け、演繹的事例解法は身に着けないことの重要性について述べる。

例えば、貴方が高打率1億円バッターになりたいとする。多くの人は、ピッチャーを研究し、変化球に対応できる打法を編み出そうとする。又は、テキスト本を読み漁り、無駄な筋トレを行うなどして、どんなピッチャーにも対応できるようになれるようにと研究する。これが演繹的考えである。対して、帰納的に考える人は、ピッチャーなど目にもくれない。自分が真似できそうな体型の似た1億円高打率打者を見つけ出し、全てを真似するのである。松井選手のようなホームラン型打者、イチロー選手のようなヒット型打者のような大きな見方で先ず選び、そして起床時間、食事、トレーニング内容、考え方(ボール玉には手を出さない等々)、コーチ指導の受け方(素直かどうか、他人の助言を受け止める姿勢等々)など全てを真似するのである。少しでも真似ができれば、その理想となる打者の打率・年収に幾分か、近づくことが短時間で達成できる。演繹的考えだと、真似をすること

は思いもつかず、松井選手・イチロー選手のピッチャーへの打法・対応技術・考え方を研究したがるのである。そして、自分もその考え方を身に着ければ、同じようになれると考える。確かに、その点は否定しないし、さらなる高打率打者になれるかもしてない。しかし、長時間であることは、覚悟しなければならない。打法や考えといった両選手の頭の中にあることは、早々、分かるものではなく、せいぜい評論家になれるだけである。それよりは、目に見える高打率選手の技術・行動を真似し出来るようになることが、悩む時間も無く効率的である。

繰り返すが、高打率1億円打者になる場合、既に達成しているバッターの真似をすることが第一にやることであり、達成打者の研究ではない。ましてや、ピッチャーを研究しても意味をなさない。同じことを多くの受験者が行っている。合格者になりたいのであれば、高再現合格答案の真似が第一にやることであり、合格者の思考法を研究している場合ではない。ましてや、出題者研究（上記例ではピッチャーに当たる）や部分事例高得点不合格者答案の研究は言うまでもない。帰納的事例解法は、千利休訓「守・破・離」のいうところの「守」である。第二次試験合格は、「守」をすべきであり、「破・離」に相当する演繹的事例解法は、合格後、独立診断士となった暁にすべきことである。

短時間で第二次試験合格を目指す際、試験合格するために真似すべきものは、合格答案である。しかも高い再現性を有している合格再現答案である。合格再現答案を試験時間に書いた合格者の真似をし、同じ合格答案を書く練習をし、そして同じ試験結果、つまり合格を難なく短期間で得ればいいだけなのである。研究ではない。

演繹的事例解法の場合、そうはいかない。同じ再現性の高い合格答案を手にしても、真似するポイントが完全にズレている。短期間合格者の真似した記述練習をするどころか、合格者の事例文読解法・分析方法を聞きたがり、どのような知識を持てば合格答案が書けるのか、どのように事例文を判断すれば合格答案が書けるのか、と合格に遠回りの道を選ぶことになる。さらに短期間試験合格という目標を見失い勘違いし始めると、短期間合格者が思いもよらぬ超難解キーワードを売りにしたような模範解答を見て、その作成方法を研究し、憧れに似た意識を持ち始め勝手に合格答案を頭の中で描き始めるのである。

以前、プロ並みの小学生野球ピッチャー・バッターの映像が放映されていたが、そのからくりはビデオ映像の早送りであったことが問題になった。演繹的事例解法で作成された超難解・高分析な模範解答も同じことが言える。その解答作成の事例文読解時間が、試験時間80分を大幅に超えているどころか、1週間、2週間もかかっている可能性が高く、さらに事例文研究と称して受験生にも同じことを強要する。そして、いずれ早くなるという呪文のような講義で、絵にかいた餅のような模範解答の作成を夢見て過ごすのである。

参考までに養成課程は、時間に余裕があり事例研究でもやらないと、やることがない。いわゆる試験組（養成課程合格者が自分たちと区別する時に使う試験合格者の通称・呼称）

に、事例研究の必要はない。事例研究が必要ならば、自らの専門分野に限り経営コンサルタントとして必要な範囲を合格後にすればいいだけである。試験組に必要なのは、合格に必要な最低限の神速合格解答記述力である。試験時間内に、その時の最適解を瞬答できる帰納的事例解法の準備が必要なのである。合格後に使うか使わないか分からないような分野の演繹的事例解法による事例研究を行っている暇も時間も許されていないし、知らなくても合格後に困ることはない。特に財務に言えることであるが、診断士財務知識レベルで、経理部・税理士・会計士と対等に渡り合っているなど勘違いしてはならない。さらに経営者から生兵法的な財務知識を求められることもない。あくまでも現在のキャリアをベースにした中小企業診断士という経営コンサルタントを目指すことを忘れてはならないし、なおさら現在の仕事に感謝し大切に業務遂行していく必要があるというMMC主張の本意が分かって頂けるはずである。

MMCでは、演繹的解法を全面否定している訳ではない。そもそも帰納的解法は、目先の成果（合格答案）を短時間で得るため・書き上げるために結果から考える記述法である。目先の成果（合格答案）のレベル・所要時間がはっきりしている場合に、有効な解法ともいえる。対して演繹的事例解法の成果には際限がない場合が多い。だれも答え知らないという場合に有効な解法である。試験時間が、8時間であるならば、MMCも事例文を完全熟読・解読を行い、超難解キーワードを盛り込んだ解答作成を行う演繹的事例解法を勧める。試験時間が80分という短時間であることが、帰納的事例解法・演繹的事例解法選択のポイントなのである。しかも80分という短い試験時間は、帰納的事例解法をとる受験生にとっては、有利な試験条件となる。

目標は、中小企業診断士第二次試験である。試験時間は、短時間80分。真似しなければならないのは、高い再現性を持つ合格再現答案の記述力と事例文の帰納的事例解法での見方である。学者になるのであれば、長時間事例文研究・読解を経て作成された超難解模範解答を研究することが必要である。両解法は、同時使用できない。どちらを選ぶかは明白であると、MMCは考えている。

帰納的事例解法

合格記述解法帖では、合格記述FCを説明している。合格記述法は、帰納的事例解法を用いている。中小企業診断士第二次試験合格のためには、合格解答が中小企業診断協会・出題者から公表されてないため、合格者再現答案を最適解とすることが必要である。MMCでは帰納的事例解法に対して、一般的な有名理論や学者知識を用いた事例分析を経る事例解法を演繹的事例解法と呼んでいる。演繹的事例解法は、合格再現答案を参考程度に扱い、理論上の最高・至高の理想論的な完璧答案を目指している。演繹的事例解法が第二次試験（記述試験）の合格目標に不適切な解法であることは後述する。

合格再現答案は、一様ではない。MMCではMMC受講生から試験後あまり時間を経ず提出された再現答案を採用している。その再現答案も、可能な限り手書きのものを選んでい
る。中には、焦って書いて字が汚いものや番号でも、①～、①～と錯綜したものもある
が、再現性の高い答案であること間違いない。こうした答案に対して、合格発表後に送ら
れてくる答案は、手書きでなくワードプロセッサで書かれたもの、予備校模範解答を参
考にしたものなど、実際に試験場で作成した答案ではなく、丁寧で高レベルのキーワード
でまとめられたものが多い。MMCでは、こうした内容は整然としているが再現性が低い
と思われる再現答案は、一切の排除を行っている。もっと分かりやすく言えば、MMC講
師が、これからMMC受講生になる人たちが真似して同じような書き方ができる答案を選
んでいるということである。情報過多が叫ばれる時代、再現答案も数多く出ているが、そ
の中から再現性の高い合格再現答案を見抜くことも必要である。ありもしない高レベルの
再現答案を見ることは、不必要な合格答案を書く努力を強いられるだけで、合格への道
りは遠回りとなる。また、再現性の高い再現答案の作成も誰もができるというわけでは
ない。演繹的事例解法で事例文・設問を試験場その場で分析的に見て解答記述した場合、そ
の場で書いた具体策を後で思い出すことが出来ず再現答案の作成ができない場合が多い。
中には、試験後の事例文読み直し時、試験時とは全く違う具体策を気が付かず再現答案で
書いているケースも見受けられる。

対して、MMCでは、よくある因果KM（因果関係でキーワードをマトリックス状にまと
めたもの）を事前に練習で準備し、設問で聞かれていることに対しても、事前によくある
分かりやすく伝わりやすい解答型を用いて答え方を準備する。解答型に因果KMを入れ込
み、パズルを組み立てるような記述法を指導している。試験時間中は、事例文中に、これ
ら解答メモ（便宜上、解答型+因果KMを解答メモと定義）を作成し文章化していくこと
になる。こうした合格者によくある解答型・因果KMを事前に準備する点を帰納的事例解
法（MMC記述FC）と呼んでいる。MMC受講生は、帰納的事例解法を用いるため、解
答メモ（解答型+因果KM）を用いて、再現性の高い再現答案が作成できることになる。
帰納的事例解法は、分かりやすい解答メモ（合格者によくある解答型+因果KM）を事前
に準備・想定しておく事例解答記述法である。対して、演繹的事例解法（事例分析と思
い付きの解答型+因果KM）は、その場で出題された事例に対する最高・至高の解答メモを
書いていくことになるが、そうした時間も取れないことが多い。事例文の出題都度、いつ
も異なる事例に応じた解答メモを考えることを強要されているため、解答メモ作成が成
行きになり、解答樹目を埋めるだけとなる。そのため、再現答案作成時も、再度、事例解
き直しになり、再現答案とは言えないような初回書き上げ答案とことなる答案しか書け
ないことになる。

二つの解法の違いは、二次方程式問題を解くことに例えると分かりやすい。帰納的事例解法は、はじめから解の公式（MMC記述FCでは、合格解答型+合格因果KM）しか思い浮かべず、事前に公式計算練習（MMC記述FCでは、解答メモから解答への文章化に相当）のみを短時間で正確に事前練習・復習を重点的に行う。対して、演繹的事例解法は、数学的意味合いの理解を重視し、都度、二次方程式の公式展開（記述FCでは、事例文・設問分析を経た解答の文章化に相当）を行う。ともすると、演繹的事例解法では、「三次方程式が出たらどうするか、四次方程式の場合は？」と心配性の塊のような発想で余計な知識ばかり気になり、目の前の二次方程式の計算練習（記述FCでは、文章化に相当）をせず、理論展開ばかり追い求める知識欲の権化となる。結果、80分の試験でどちらが多く得点するかは一目瞭然である。

こうした違いを踏まえてMMCでは、事例解法指導は、帰納的事例解法で行っている。また、解法そのものの理解だけではなく、同じことを正確・短時間に行うことが、基本問題の大量得点につながるため、記述復習を最重要な合格のための試験対策と位置付けている。

再現答案についても、帰納的事例解法を理解・実践しているMMC受講生からの再現答案のみを採用しており、演繹的事例解法で書いていると思われる一般不特定多数からの再現答案は参考としない。

ここで、帰納的事例解法を高い再現性を持つ再現答案入手のためにMMCが指導していると勘違いする受験生も存在するが、そうではないことを強く主張する。

MMC指導目的は、MMC受講生の合格率を高め、合格者に近い答案の記述力養成である。合格者の良く使っていた解答メモ（解答型+因果KM）作成の重要性を伝え、記述復習により演繹的事例解法の受験者より微差の高得点獲得を達成することで、合格率を向上させることである。その結果、付随的に再現性の高い再現答案が作成できるということである。

また、再現答案を答練・模試直後に課すると、再現答案を作成するための解答型・因果KMの作成を意識するようになり、試験時においても解答型・因果KMの作成を意識するようになる。

いわば再現性の高い再現答案の作成能力があるということは、合格できる分かりやすい解答メモ作成・合格答案記述が短時間でできるということでもある。それは、その場の思い付きで書かないということに一致する。そのため、常日頃の答練でも、再現答案を作成できるか試し、その日の答練を帰納的事例解法（合格者が良く使っていた解答メモの作成で解答記述）していたかどうかを確認し、合格力を向上させることができるのである。脅迫的に知識復習や詳細な事例分析を要求する演繹的事例解法は、合格後に行う実務補習や養

成課程での事例分析など時間が確保できる際に行うものであり、80分という短時間試験の第二次試験（記述試験）には不向きな解法である。

第二次試験合格答案を書くためには合格者の書いていた合格答案を知り合格答案を書く。

知識偏重の模範解法は、出題者・講師の希望的理想論であり合格答案とは異なるもの。

帰納的事例解法は合格再現答案を重視、演繹的事例解法は教科書的答案を重視。

短時間の第二次試験には、帰納的事例解法が有効。演繹的事例解法は時間・見栄えで劣位。

MMC合格再現答案は、再現率が高いので、最低限の合格記述力が分かる。

MMC記述FCは、解答メモ(解答型+因果KM)で短時間に解答する記述法

帰納的事例解法の重要性

帰納的事例解法で第二次試験に対応することは、合格解答を始めから準備することである。帰納的事例解法では、本当に事例文から解答を引き出すことは行わない。なぜなら、毎年、同じような解答で合格できると事前に把握しているし、同じような合格解答を書くのであれば、事例も同じような根拠文を見いだすだけで十分だと分かっているためである。毎年作成される出題者が少し表現を変えただけの事例文を詳細に見直す無駄な作業など行いたくないのである。その二度手間分析を、演繹的事例解法で行わせている現実を見抜いている。しかし、採点者側の立場もあるため、一応、演繹的事例解法で解きましたというへりくだった姿勢を示すため、解答は、「因果で書く」のである。

これは、日本特有の営業値引き交渉にも似ている。数億単位の仕事になると、数回の値引き交渉を経る必要がある。サプライヤー側営業から考えれば、バイヤー側購買の出せる金額を初めから提示してもらい、その金額に応じた製品を提供することが早いし手間も少ない。しかし、バイヤー側購買は、ぼったくりという過剰利益上乗せを恐れて、何度も確認するように値下げ交渉を要求する。初めからサプライヤー側の金額算出を信用していないため、度重なる値引き交渉を行うことそのものが、バイヤー側購買の安心材料となる。言い換えると、複数回の値引き交渉そのものが必要となるため、サプライヤー側営業は、初回から契約金額を出すわけにはいかなくなる。そのため、バイヤー側購買の値引き交渉回数を事前に察知し、バイヤー側購買のために、段階を踏んだ見積金額を複数回準備し、交渉要求に応じて提示していく。いわゆる出来レース状態である。新人営業マンにありがちなのが、値引き交渉の手間を嫌がり、最初から決定金額を提示するが、これではバイヤー側購買の値引き交渉という仕事が無くなってしまい、困ることが分かっていないのである。経験豊富な営業マンでも、出来レースを理解するどころか自ら否定し、しなくてもよい心配と持たなくてもよい失注の恐怖感からとんでもない出血赤字金額を自ら提示してしまうことがある。受験頻度に応じて、2タイプの営業マンに似たような解答を出していないか、今一度振り返ってほしい。すなわち、根拠レスのぶっくらぼうな解答（単答・単語

列挙)と無駄に難解な解答(書き過ぎ・考えすぎ解答)である。

毎年、同じような解答で合格できるのであれば、その再現性の高い合格再現答案を事前に把握し、同じようなものを解答として書けば、いいだけなのである。しかし、それでは出題者の作問者としての立場がなくなってしまう。かといって、一々、受験生側も合格解答が同じであるのに、事例文を読解するような無駄な作業は行いたくない。

そのため、因果の果である合格者再現答案を、「果因で準備」の意識でしっかり押さえ神速で記述できるようにしておき、解答は一生懸命作問した出題者の顔を立てるように演繹的事例解法でさも解答したように「因果で書く」ようにしてあげるのである。いつも合格解答は同じという出来レースが把握できず演繹的事例解法にはまってしまい、奇抜な解答ばかり考えるようになると、受験マニア・多年度受験者となる。前期の営業の例でいうと、値引き交渉を形式的な儀式と捉えることができず、訳の分からない見積提出を行うようになった営業マンとなる。具体的には、見積提出ごとに製品仕様を変更し見積根拠を変え、いつも違う見積金額提示を行うようになった状態である。又は、バイヤー側購買から頼まれもしていないのに、会社に損害を与えるほどの赤字見積金額提示をする。

事例でいうと、合格解答は分かっているのに、同じことを書いても合格できないという迷信のような合格解答否定・合格者再現答案否定を行い、事例文ごとに論点を変えた異なる解答を書きたがるようになる。そうした解答は、単語だけ覚えた思い付きの解答であることが多い。初見事例文に対して始めて記述する文章であるため、支離滅裂な文章になるか、又は、全く書けず空欄となる。

合格解答を「果因で準備し、因果で答える」という手法をとる帰納的事例解法の本当の意味するところは、受験生側の採点者に対する配慮なのである。採点者としては、毎年代り映えしない基本的な解答の方が手間もかからず採点でき、それを望んでいるのである。こうした採点者の心境を知ろうとせず、経営コンサルタント気取りで演繹的事例解法の「因果で解き、因果で答える」を主張し、記述された解答の多くは、奇抜で意味不明・不必要に難解な解答が多く、採点者としては見るに耐えかねない文章となる。こうした解答は、採点者にとって苦痛を伴う採点作業となるだけでなく、初めから切り捨てられることは、理解しておきたい。演繹的事例解法は、合格者答案をほとんど参考にしない知識解法である。自身が専門とせず第一次試験合格の裏打しかない科目知識で、大学教授レベルの採点者のお目にかなう知識的・理論的正当性を短時間で解答に持たせられるという自信があるならば、是非、勇敢に敢行して頂きたい。

MMCでは受講生に対して、短期資格取得・短期試験合格を最優先に考えている。資格取得後は、それぞれ個人の有するビジネスキャリアを用いて経営コンサルタントとして活躍できると信じている。そのため、短期合格に有効な帰納的事例解法をメインとして考え、演繹的事例解法は必要最低限で十分であると考えている。また、自身の専門知識外の演繹

的事例解法知識は、第一次試験で修得を完了していると考えている。短期合格に必要なのは、本当の再現性の高い合格者の再現答案である。それを知らずともせず、事例分析で複数の合格解答を考え、いずれ合格できだろうと考える演繹的事例解法で取り組んでいたのでは、ビギナーズラックでもない限り短期合格は難しい。視点を変えれば、合格答案ありきの帰納的事例解法は、正統派ビギナーズラック合格法とも言える。つまりビギナーズラック的に見えるストレート合格者は、手間・暇のかかる演繹的事例解法に見切りを付け、始めから帰納的事例解法を選んでいる受験生といえる。どちらを選ぶかは、個人の好みになるが、無駄な苦勞はできるだけせず、帰納的事例解法で出来た余裕・余暇を趣味・家族サービス・仕事にあて、楽しみながら中小企業診断士合格を目指すのが、MMCの根本的な試験対策姿勢となっている。また、帰納的事例解法を支える合格答案記述力養成・高再現合格答案収集・高再現合格答案提供・合格答案教材反映こそが、今のMMCの使命である。帰納的事例解法でポイントとなる再現性の高い合格再現答案作成能力は、後述する合格解答メモによる記述法と一致している。合格再現答案を参考にした帰納的事例解法で作成され、同時に高い再現性を持つ合格再現答案が、次年度MMC受講生に受け継がれ、年度を跨いだMMC受講生の良い合格ループを描くことこそが、MMCの標榜する第二次試験短期合格法である。

合格答案とは

合格答案の三要件

- ・ 分かりやすさ
- ・ 見栄え
- ・ 短時間記述（試験時間厳守）

⇒合格解答メモで神速記述

解答メモ(解答型+因果KM)

⇒因果KM (キーワード・マトリックス)

⇒解答型

⇒解答メモ (因果KM+解答型) で神速記述

合格解答

- ① 分かりやすい基本的キーワードが用いられている。
- ② 見栄えのよい読みやすい型が文章にある。
- ③ 試験時間内（短時間）に書かれている。

合格解答とは、短時間記述・分かりやすいキーワード・読みやすい型がある文章のこと。

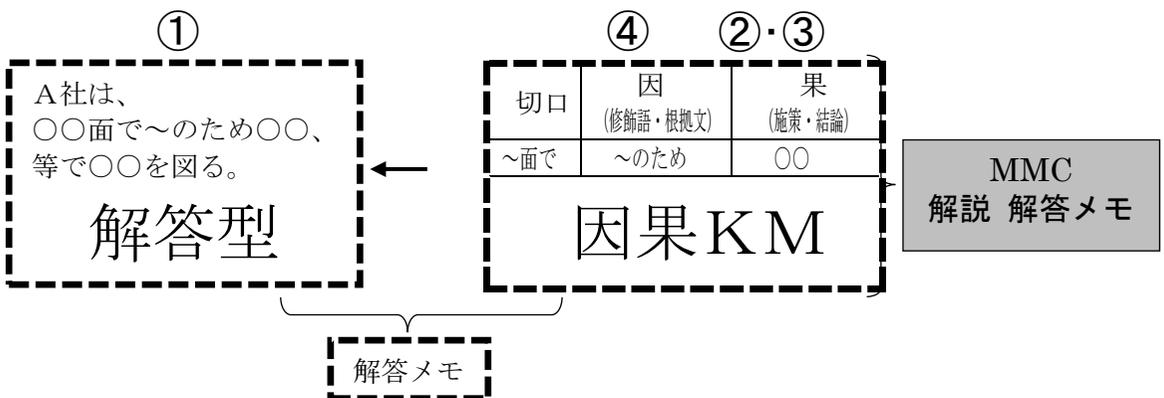
合格解答には、解答メモが必要

合格答案を短時間に書くために必要なのは、解答メモ（解答型+因果KM）を作成し、両者をパズルのように組み上げ文章化することが必要である。ここで、便宜上、解答型と因果KMの二つを「解答メモ」と定義する。事例文を見て、思いつきやその場の流れで解答を書くことを改め、しっかりとした解答メモ（解答型+因果KM）を作成する手順を行うことが必要である。

解答メモ(解答型+因果KM)は、合格解答の短時間記述のため作成する。

解答文章化は、因果KMを解答型に入れ込み、パズル組立のように考える。

- ① 設問題意を要約し、解答型を考える
- ② 合格設問FCで設問の合格因果KM位置づけを把握し具体的解答キーワードを想定
- ③ 具体的キーワードが捏造とならないように、事例文根拠有無を確認
- ④ 事例文根拠を修飾語のように解答の因として使用



解説中に含まれる解答メモとは、合格解答型や合格因果KMを基に模範解答を書くための解答型と因果KMであり、模範解答を記述する場合に事例文上に作成する解答メモの正解のようなものである。

解答型

解答型とは、設問に対応した分かりやすい解答文章にするため、主語・述語・N o等々、文章の主要な型（文章の骨子）を指す。解答は、単に答えを単答・単語で書くだけでなく、なぜその答えなのかを示す「～のため」で書くと分かりやすくなる。つまり、解答を「～のため、〇〇を行う」と因果関係を用いて書く。この記述スタイルを「因果関係で解答を書く」と定義し、因果関係で書かれた解答の型を、「解答型」と定義する。解答型には、因果関係だけではなく、さらに見栄えを良くするために切口を加えるとよい。因果関係で書くのは、採点者に分かりやすくするためである。勘違いしやすい流れが、事例を因として捉え、果の解答を導く演繹事例解法の流れである。MMCでは、果の解答は、事前に合格因果KMで確認しておき、その根拠となる因の根拠を事例に探す帰納的事例解法で、果因の順で準備するのが原則である。しかしこの果因の順で解答を書くこと採点者に伝わりにくい解答となるため、解答はあたかも事例文から解答を引き出す演繹的事例解法の流れの因果の順で書くことになるのである。

解答する際は、瞬間即答（以降、瞬答）するために設問題意に対する果キーワードを合格因果KM（合格再現答案で多用されているキーワードをまとめたもの）から選びたい。つまり、「果因で準備し、因果で書く」ということになる。言葉そのまま、因果関係で事例文から果キーワードである解答を導くのが、一般的な演繹的事例解法（分析的事例解法）である。この解法は、無制限の研究時間が許され、最高解・至高解を研究する学者向きの解法である。試験時間が短時間有限の中小企業診断士第二次試験では、合格者再現答案を合格のための最適解とした帰納的事例解法をお勧めする。

解答型(基本形)は、因果関係で書く:〇〇面(切口)で、～(因)のため、〇〇(果)を行う。

短時間対応のため果因で解答準備を行っておき、分かりやすい解答にするため因果で書く。

合格解答記述のための解答型の重要性

解答型、つまり読みやすく分かりやすくすることが、合格解答には必須である。この点について、多くの受験生の認識が不足していると考えられる。そもそも第二次試験解答を書類として考え、その認識を改める必要がある。第二次試験解答は、経営診断後に協会に提出する診断報告書のミニチュア版とも言える。つまり、協会に提出する診断報告書といっても過言ではない。一般的な民間企業で考えると、工場や売場など現場からあげられてくる作業日報・売上日報であり、企画書のような類ではないと考えるとよい。会社に対し、自

分が持っている知識で何を提案したのかを示すものが企画書である。まだ、形にもなっていない考えを会社に示し、会社側が実行させてくれるかは不明である。企画書も現実性が高いもの、しっかりした準備や根拠が押さえられていれば、上司・協会としても読む価値があるものの、大半は、聞いたような知識を用いた戯言書類としてしか見られないのが現実である。

対して、作業日報は、現場で指導したこと、又は自身が仕事として行ったことである。本社・協会側としては、奇抜な作業を思いついたということは一切不要である。できて当たり前、そしてポカミスなく作業を行わせたのか、又は行ったのか、その結果がどうなったのか、を知りたいだけである。現場からの奇抜なアイデア・荒唐無稽な考えなど全く求めていない。むしろ、本社から指示したことをモレなくミスなく行ったこと、達成率が80%程度にとどまったことなど、現場での作業・指導・アドバイス結果を報告してほしいだけである。ここで、やってもいないこと、指導していないことを、さもやったように、又は指導したように作業日報に書けば、捏造となる。後日、捏造報告書が発覚した際に困るのは、チェック不足の本社・協会である。こうしたことを防ぐために、本社・協会側は、作業日報・診断報告書を定型化（日時、作業項目、指導項目、達成率等々）し、チェックしやすく捏造を見抜けるようにしているのである。

作業日報のようなフォームは、梃目解答用紙にはない。そのため、受験生自身が、事前に協会・採点者の意図を汲み取り、事前段取りとして準備することが解答型の準備なのである。第二次試験解答ともなれば、採点者側は、一々、個別フォームの解答などに構ってられないし、読みもしたくないという状態で、内容の確認すらしてもらえない可能性が高い。つまり、見栄えの悪い読みにくい解答は、良いキーワードが書かれていようが書かれていまいが、採点の土俵にすら上がっていない可能性が高い。

そのため、合格解答条件を満たすためには、解答型（読みやすい）が、因果KM（分かりやすいキーワード）に優先されて考えられないといけないことになる。

さらに、受験生の中には、学校で先生に答案を提出するような学生気分で解答作成する人が多々いる。この点についても、改める必要がある。中小企業診断士受験生は、協会からみて学生ではない。作業日報・診断報告書がしっかり書ける人を見極めているだけである。民間企業でいえば、上司と部下の関係であり、先生と学生という甘い関係で捉えていない。先生は、お金をもらい学生の解答修正指導するのが、仕事である。そのため、学生は自分が勉強し努力したことを解答に表現し、半ば感想文的アピール文章を書けばよい。時間に余裕のある学者先生であれば、起承転結でかかれた報告書にも付き合いもする。企業の上司・部下、試験での採点者・受験生では、こうした関係は成立しにくい。上司・採点者は、自分の仕事もあることから、指導のみを行うということができない。そのため、作業日報的なビジネス文章は、上司・採点者が読みやすくチェックしやすい型を持って、受験生・

部下に書かれることが必要である。

何度も繰り返すが、第二次試験受験生は協会の学生ではない。指示した診断報告書・作業日報が、まともに書けず読めない、読みにくいもの、内容も奇抜で自分勝手な指導、本社・協会から指示したことはなんら現場で指導・実行していない、さらに解答・報告者が読みにくく理解に苦しむ、という状態であれば、給料というお金を払っている立場の上司・協会側からすると、その修正義務は全くないし、自分の学生と思うこともない。次に仕事を頼めない部下を一人見つけただけということである。部下・受験生は、二度と仕事が来ない、何回受験しても不合格であり、どこが悪いのかなど指導も受けることができない。そのため、解答型は、採点者が読みやすい解答とするための最低限の義務・礼儀である。最短の方法として、合格者解答型を事前に準備しておくことが重要となる。

中小企業診断士受験者は、学生ではない。解答は、作業日報を上司に提出する心持ちを持つことをお勧めする。

合格後も、協会に基づいた考えで診断報告書を書くことを強制されたり、経営コンサルタントとしての姿勢が抑制されるのかと不安に思うかもしれないが、その心配は一切不要である。協会が委託している業務は、ほとんどなく、協会のフォーマットを強制されるのは、合格後の実務補習ぐらいである。その後、協会に属さなければ、自身のキャリアを活用した経営コンサルタントとして活躍できる。中小企業診断士試験は、中小企業診断協会という一協会が担当しているだけであり、合格までの間、郷に入っては郷に従えの心持ちで、協会・本試験採点者のお好みに合わせた作業日報を書けばよいと割り切ることが最善である。

第二次試験解答は、作業日報であり、学習感想文・企画書ではない。

採点者は、お金を払っている先生ではなく、お金をもらっている上司として考える。

解答を読みやすく確認しやすくすることは、受験生・部下の最低限の義務・礼儀である。

解答に奇抜さは一切不要であり、かえって採点者には迷惑千番。

解答は、できて当たり前のことをモレなく複数、見やすく記述する。

因果KM(キーワード・マトリックス)

解答型の、「因キーワード」には、事例文の根拠キーワードや問題キーワード・課題キーワード等々が入る。「果キーワード」には、具体的施策・結論(強み・弱みなど)・その他基本キーワードが入る。因キーワードと果キーワードの両キーワードを表にしてまとめると、両者の因果関係の素早い整合チェックができる。この表を便宜上、「因果KM(キーワード・マトリックス)」と定義する。

果部分は、具体的施策や結論が良い。合格者が使っている基本的な果キーワードは、本試験年度によらず、いつも同じようなキーワードを使用している。因キーワードには、事例文から要領よく引き抜いてくる必要があるが、こちらも解答レベルの単語化した状態でみると、本試験年度事例文によらず、いつも同じような根拠キーワードとなる。

因果KMは、因キーワードと果キーワードの短時間整合性チェックをするために作成。

因果KMの素早や想定のため、合格因果KMを辞書的イメージで活用する。

合格解答記述のための因果KMの重要性

因果KMで合格解答を書くことは、採点者の納得感を得るための最低限の義務であることは明白である。因K(Kはキーワード ~のため)がなく、果K(Kはキーワード ~のため)のみを単語列挙・羅列の単答形式で答える方が、数多く高得点も得られるという受験生も多いが、残念ながらそれは得点には逆作用する。そのような単語列挙解答は、隣の受験生の解答用紙をちょっと拝見させていただいたカンニング解答としか見られないためである。さらに、高飛車な高難度キーワードを用いていけば、「先生なんだから、結果である果Kだけ書いとけば、事例文のどこを根拠して書いたかわかるよね、それぐらい、言わなくてもわかりますよね、僕がどこ見て書いたのか」ぐらいに思われても仕方がない。

そのため、必ず事例文から判断して解答したという証明をするためにも、因果関係で解答を書く必要がある。

果Kの準備も、教科書的に多数準備すれば良いわけではない。合格者が多頻度使用していた結果論で優先順位を付け、短時間試験に対応できるように取捨選択しておく必要がある。この点を理解するために、MMCで良く用いている役員兼事業部長のPC修理の話以下に記載する。早朝、会社に出社した際、普段から尊敬の念を抱いている自身の会社の役員兼事業部長のPCが故障しており、困惑した部長が目の前にいるとする。他の誰も出社しておらず、部長と貴方一人とする。ここは、手際良く修理して、部長に良いところを見せ、手柄の一つでも上げたいところである。話を聞いてみれば、午後からの株主総会資料が入っていると。故障の修理に成功すれば、万が一の時のために株主総会への同行も頼まれるかもしれない。何としても、PC故障の修理に成功したいものである。

ここで、貴方はPC知識がほとんどないでしょう。あきらめるか、逃げるか、メーカーに電話を試みるか、はたまたPCを総分解し始め無駄な努力でかえって部長に迷惑をかけるか、休暇中のPCに詳しい同僚に迷惑電話をかけ倒すか、机の上の誇りのかかったPC本を拵げ努力している様を見せるか、様々な対応策が思いつくと思う。こうした行動は、第二次試験事例文の解答記述時・学習時に、次のような行動となって現れる。試験中の真摯で真面目に解いた様をスタンドプレーするための多種類のカラフルなマーカーを使用した分析、年間一回しか広げない難解本の収集、しっかりした分析と称して重箱の隅しか見ていないとしか言えないような細かい事例文読解、等々思い当たる点が多々あることだと思う。

冷静に考えてほしい。PC取扱説明書の最後にトラブルシューティング・FQA (Frequently Asked Questions よくある質問・答え) を参照すればよいのである。それも部長が横を向いている隙を見計らって。トラブルシューティングには、多頻度発生する故障・対応策が、重要順・頻発順で並んでいる。ここで重要な点として、トラブルシューティング項目は、問題と対応策がセットで準備できるものが並んでいることがあげられる。対応策が使用者の域を超えている場合は、メーカーへ連絡となりトラブルシューティングには上がらない。この場合、並んでいる最上位の電源コンセントの確認から行っていけばよいのである。その修理作業に一切のPC知識は不要であるものの、トラブルシューティングの優先順に行くことが大切である。上手く二番目、三番目で修理完了できれば、部長の目にはとても優れた部下と映るし、修理対応の迅速さには感動すら覚えるはずである。たとえトラブルシューティングを参照したと言っても、そのような時間を優先した問題解決要領の手際の良さは評価されるはずである。耳年増的・マニア的PC知識は、全く役に立たない。

ここで、たとえ対応策が標準的・基本的なものであっても、神速で対応することの重要性・大切さが理解できるはずである。神速で記述・対応するためには、よくある問題・対策を準備し、使う練習が必要なのである。如何に良い製品であっても標準品として在庫確保し、神速納期を確保するのに似ている。高々、どこにでもあるような中小企業の事例文に対し、神速解答の準備をせず学者知識ばかり増やすことに血眼になることは、トラブルシューティングを投げ捨て、つたないPC知識を持って部長(解答の場合、採点者)の前で恥をさらすと同時に、部長(解答の場合、採点者)の印象を悪くしているだけなのである。無駄な知識を増やすということが、合格をいかに遠ざけていることか早く気が付けるはずである。

第二次試験事例文中の経営者の前で、トラブルシューティングを用いてPC知識に疎遠な貴方が上手く修理したのと同じことを、合格因果KMを用いて経営アドバイス解答を神速記述すればよいだけである。

MMC合格因果KMの果Kと因Kの組み合わせや優先順は、合格者再現答案での使用頻度の多さで判断されている。有名理論・出題者著書等は、原則、加味されていない。4事例の中でも、全てにおいて現在のキャリアと同一という受験生はほとんどいない。実務経験の無い事例に対しても、臆することなく合格因果KMをトラブルシューティングとして活用し、採点者に手際よく解答を作成している様を見せ、合格者への小道具として活用して頂きたい。そして、対策の無い問題、又は対策が準備できていない問題は、わざわざ事例文に見に行く必要もないということに気が付けるはずである。演繹的事例解法を用いる受験生の多くは、始めに自分の対策準備ができていのかどうかや、その程度・レベルをわきまえず事例文の問題ばかり見つけようとするため、混乱を招く。さらに、単なる学者知識・難解知識で自分勝手な因果KMを作成することは、無駄骨に等しい。第二次試験事例文のトラブルシューティングとなる因果KMの作成には、必ず再現性の高い合格答案をMMCで使用している理由は、この点にある。

合格因果KMは、事例文中経緯者に対する受験生のトラブルシューティング

効果のある合格因果KMの作成には、再現性の高い合格答案が有効。

トラブルシューティング優先順位順に素早くみることが重要であり、項目の数ではない。

解答記述(パワーポイント形式)

因果KMのキーワードを解答型に入れ込み、パズルを組立てるように記述すると、分かりやすいキーワードで、読みやすく見栄えの良い型を持つ合格解答が短時間で書ける。はじめは、パワーポイント形式でまとめると、見栄え、読みやすさのチェックが素早く出来る。

合格解答の見栄えは、パワーポイント形式でチェックする。

前書き合格答案

(パワポ形式)

- ・ 分かりやすい (因果KMで因果関係をチェック)
- ・ 見栄え (解答型で見栄え・読みやすさをチェック)
- ・ 短時間 (解答メモ作成 記述復習)

A社は、
①〇〇面で~のため〇〇、
②〇〇面で~のため〇〇、
等で〇〇を図る。

↓ 字数調整

合格答案

(柵目形式)

- ・ 合格点 60 点・20%上位確保
- ・ パワポ形式 → 柵目形式 字数調整力
- ・ 主語・述語 ← 字数調整バッファ

A社は、①〇〇面で~のため〇〇、②〇〇面で~のため〇〇、等で〇〇を図る。

解答記述(柵目形式)

ビジネスシーンで解答が使用されると考えた場合、パワーポイント形式が最適である。しかし試験では柵目形式で解答が要求されている。そのため、パワーポイント形式解答を、柵目形式解答に転記するイメージでよい。十中八九、字数超過となるため、パワーポイント形式解答で減らす場所を検討する。主語・述語・Noの省略から始まり、事例文根拠ワードの略語化等々、字数に合わせ減らす作業を何回か繰り返した後、字数調整が完了する。合格者は、はじめから柵目に合わせて書けるわけではない。パワーポイント形式解答で見栄えをチェックし、その後、柵目形式で字数調整を記述復習で行い、一発で柵目ピッタリの解答が書けるようになるのである。

慣れてくれば、パワーポイント形式解答を頭でイメージして、そのまま柵目形式解答を記載できるようになる。

パワーポイント形式解答で、解答型読みやすさ(文章定型化)と因果KM整合性のチェック

柵目形式解答には、字数調整力が必要である。

合格解答は、MMC合格解法手順で作成し、事例文分析な悩む時間をなくす。

MMC合格解答記述FC手順

- ①設問題意に対応した「解答型」を作成する。 ←MMC合格解答型
- ②設問題意を合格設問FCで粗把握する。 ←MMC合格設問FC
- ③設問題意に対応した「因果KM 果キーワードを想定」 ←MMC合格因果KM
- ③「因果KM 果キーワード」の根拠となる「因果KM 根拠文・因キーワード」を事例文に見出す。想定した「果キーワード」の根拠文がない場合、無理して解答に書けば、解答の捏造となる。
- ④因果KMを解答型にあてはめ、パワーポイント形式解答を作成する。
- ⑤パワーポイント形式解答の字数調整を行いながら樹目形式解答に仕上げる。

解答記述 パワーポイント形式から樹目形式に手順を踏むことの重要性

合格者は、始めからいきなり樹目形式の解答を記述していると勘違いしてはならない。最終的に完成させるべき解答形式は、あくまでもパワーポイント形式の分かりやすく読みやすい解答である。その理由は、採点者に楽な採点をさせる、チェックを楽にさせる、瞬時に伝えるためである。つまり、樹目形式解答を採点者の頭の中で瞬時にパワーポイント形式に置き換えやすく楽に採点しやすく記述してあげるのである。

パワーポイント形式解答を仕上げてから樹目形式解答に移るべきであり、樹目形式解答はパワーポイント形式解答の転記ぐらいに考えることが必要である。

さらに、パワーポイント形式にすると、解答型読みやすさ（主語、述語、No等々）と因果KM因果整合性（～のため〇〇）が一発でチェックできるのである。

樹目形式解答の解答型読みやすさ・因果KM整合性のチェックのやり難さ・手間の多さを考えれば、パワーポイント形式解答を先行して作成する重要性が理解できるはずである。

始めから樹目形式解答を記述していたのでは、企画書まがいの起承転結の流れを持った解答になりやすい。協会・採点者・上司は、忙しい中で受験生解答に求めているものは、作業日報のような定型化されたチェックしやすい文章であることを忘れてはならない。

ここで、ルービックキューブ6面完成法を例として挙げる。6面完成法は、数種ある。しかし、どの6面完成法も、6面完成に至るまの間に、5面どころか2面すら製面しないのである。6面完成状態が最終目標であり、2面完成させる必要はないのである。そして練習で達成時間を短くすることで大会での優勝を目指す。2面、3面、そして5面と順々に起承転結の流れを持って完成させることはしない。

解答も同じである、パワーポイント形式で瞬時に採点差に分かるように表現（つまり読みやすい解答型・因果整合性のある因果KM）した解答を最初に想起すべきであり、それがあつての樹目形式の解答である。

ルービックキューブの2面、3面と揃え6面完成を目指すように、文章を起承転結で考え

ながら書いてても、分かりやすいパワーポイント形式解答にはできないことを知るべきである。最初に最終完成形6面、つまりパワーポイント形式解答を想起することが必要である。不必要な2面・3面を揃える起承転結型の企画書解答を始めに想起した場合、それが記述するに従って最終的にパワーポイント形式解答になることはない。

採点者が採点しやすいパワーポイント形式の解答を書こうとするならば、最初からその形式を考えなければならない。ひと手間かけて解答メモ（解答型・因果KM）を作成すれば、短時間で記述可能である。ロジカル展開を気取るように起承転結で報告書は書かれても、採点者・上司が受験生・部下の意を汲んでチェックしてくれることはありえない。「つまり受験生はこれがいいんだな」と採点者・上司がパワーポイント形式に置き換えて理解・チェックしてくれることもなく、切り捨てられるだけである。

解答型のない読みにくい文章、なぜその解答であるかが分かりにくい因果関係のない根拠レス解答で、採点者は困ることはない。判読不能・支離滅裂・高飛車・根拠レス（つまりカンニング解答）として判断し、採点そのものをしなくていい口実を与えることになるだけである。

**短時間採点の採点者のため、合格解答は短時間記述・パワーポイント形式解答を想起
作業日報は、箇条書き・パワーポイント形式でチェックしやすく書くと喜ばれる。**

採点者に樹目形式解答をパワーポイント形式に楽に置き換えさせ採点手間を楽にさせる。

チェック・採点してもらう合格解答に、起承転結・ロジカル展開・企画書解答は一切不要。

MMC合格4ツールとは

⇒MMC合格4ツールで合格解答を神速記述

①合格解答型

⇒解答型仮想

合格者がいつも使っている解答型リスト

合格者に良くある設問に合わせた解答型をまとめたもの

②合格設問 F C

⇒設問題意粗把握

合格者がいつも使っている設問題意把握のための体系図。

合格因果KM見出しの F C 版。

③合格因果 KM

⇒因果 KM 仮想

合格者がいつも使っている因果 KM。

合格再現答案で多用されているキーワードをマトリックスでまとめたもの。

④合格記述 F C

⇒合格神速記述

①合格解答型・②合格設問 F C・③合格因果 KM で合格答案を記述する F C。

合格答案を短時間で記述するための手順書。

合格 4 ツール

MMC 合格記述 F C では、解答メモ（解答型＋因果 KM）を作成する。この解答型と因果 KM を合格再現答案から良くあるものを引き出し、まとめたものが合格解答型、合格因果 KM となる。なお、合格設問 F C は、合格因果 KM 見出しをフローチャート形式でまとめたもので、両者は同じものを示している。

①合格解答型

合格解答型とは、MMC 受講生合格者再現答案で多用されている型（文章骨子）を抽出し、リスト化したもの。設問パターンを、① SWOT 分析、② 戦略、③ オペレーション、④ 情報、⑤ 新事業、⑥ 知識（メリット・デメリット）の 6 パターンで想定し、対応する解答型を転用・流用・変形して短時間で解答する。解答型を作成する際の基本型として使用する。

②合格設問 F C（フロー・チャート）

合格設問 F C とは、合格因果 KM の見出しをフローチャートにしたもので、両者は同じものである。設問題意に対する因果 KM 果キーワードを想定する際、設問の位置する合格因果 KM 見出すため、まず設問題意を合格設問 F C の位置づけで粗把握する。

③合格因果KM（キーワード・マトリックス）

合格因果KMとは、MMC受講生合格者再現答案で多用されているキーワードを抽出し、マトリックス化したもの。設問題意、設問要求を合格設問FCで粗把握した後、合格因果KMの具体的な果キーワードを設問にあてがう。因果KMを作成する際、合格因果KMを参考にして因果KMを作成する。

④合格記述FC（フローチャート）

合格記述FCとは、合格解答型・合格因果KM・合格設問FCを用いて、合格解答を記述するための、フローチャート。設問題意・事例文根拠から合格解答型・合格因果KM・合格設問FCを用いて、解答メモ（解答型+因果KM）を作成し、合格答案を神速記述する。

MMC合格記述復習

記述復習とは、合格解答を事例文・設問文の分析で導くのではなく、④合格解答型、⑤合格設問FC、⑥合格因果KMのMMC合格3ツールを使い、⑦合格記述Fに従い短時間に合格答案（模範解答）を書き上げる練習を記述復習帖で行うことである。合格設問FCは、合格因果KM見出しをフローチャート化したものであり、両者は同じものである。

①合格因果KM・合格設問FC、②合格解答型で解答に悩む時間（分析時間）を減らし、③記述練習で、字数調整力や見栄えある読みやすい合格解答の書上時間を神速化する。事例文・設問毎に解答を分析し解答を導くのではなく、少数パターンの合格解答を短時間で書き上げられるようにしておく。多種多様な事例文に少数の短時間で書き上げられるようにした解答で対応し、どんな事例にも短時間で60点（つまり合格点）解答を安定して記述できるよう日々記述練習をする。

「段取り八分、仕事二分（解答記述準備8分、解答記述2分）」の考えで試験合格解答記述対策とする。

解答を導くのではなく、合格解答ありきで記述速度、設問題意把握、事例根拠文確認の3点に重点を置き、記述復習により正確無比・神速記述の練習をする。

神速記述

模範解答からMMC合格3ツール（合格解答型・合格設問FC・合格因果KM）を見出し合格記述FCで神速記述

模範解答を書き上げる記述復習の際、模範解答のみを使用する。解答で書かなければいけないキーワードや型を模範解答から見出す。この際、事例文の確認は、一切、不要である。

（どうしても事例文の根拠文を確認したい場合は、解説で行うと良い）。模範解答だけで、因果KM（因K・果K 根拠修飾語・施策等）や解答型（主語、述語、No等）を想定する。

無想転生記述(設問に惑わされずいつもの合格解答を記述 設問不惑記述)

設問・解説記載事例文からMMC合格3ツール（合格解答型・合格設問FC・合格因果KM）を見出し合格記述FCで神速記述

無想転生記述は、神速記述復習を完了した事例について行う。神速記述復習では、MMC合格3ツール（合格因果KM・合格設問FC・合格解答型）を模範解答から引き出して行っている。無想転生復習記述では、模範解答を見ずに（又は、ちょい見で）設問と解説に記載された事例文のみで、因果KM、解答型の作成を行う。

凧記述(事例文に惑わされずいつもの合格解答記述 事例文不惑記述)

事例文・設問からMMC合格3ツール(合格解答型・合格設問FC・合格因果KM)を見出し合格記述FCで神速記述

凧記述は、無想転生記述復習を完了した事例について行う。

無想転生記述復習では、MMC合格3ツール(合格因果KM・合格設問FC・合格解答型)を解説記載事例文から引き出して行っている。凧記述では、解説記載事例文を見ずに白紙の事例文のみで行っていく。

記述復習実施上の留意点

- ・初めは、同一1事例で三段階を完了する。
- ・順番は、必ず神速記述 → 無想転生(設問不惑記述) → 凧記述(事例文不惑記述)の順に行う。
- ・凧記述から始めない。事例文根拠見出し意味が理解できなく、演繹的事例解法となるので注意。
- ・MMC-HPの合格体験記を参照する。これまでのMMC合格者が行っている復習法が書かれている。厳密に、神速～凧記述復習となっていなが、ほぼ同様のことを先輩MMC合格者が行っているので、参考になる。

MMC合格再現答案

これまでのMMC合格者の再現答案と、当時のMMC採点をそのままにして、教材として提供する。合格答案であるといわれなければ分からないような普通の解答ばかりである。そのため、「こんなものか」という印象で、これ以上の答案を書けばよいのか、という捉え方をする受講生が多い。そうした見方は、決してしないように注意する。以下に合格再現答案を見る際の留意点・目的などを記す。

- ・MMC採点のついた合格答案をそのままの状態を確認し、直感で選ぶ。
できれば高得点者ばかり集める見方は望ましくない。
自分にあった一人を選び、その人の事例によらない記述方法を真似させてもらうように見る。
- ・「読みやすい」「分かりやすい」合格答案とは、どのような答案なのかを見抜くように見る。「目利き力」を鍛える。
- ・自分に合う答案を選ぶ姿勢でみる。決して批判的にならない。
- ・4事例通して、自分に合う答案を見つける。一事例ずつ高得点者を選ぶ姿勢はお勧めしない。

- ・ 得点開示で協会点数が判明しているものは、記載しているが、MMC採点との差を分析するような無駄ことはしない。
- ・ 財務答案は、正解度合いをチェックすること。実際の合格点と一般的な財務の必要合格点には乖離があることを認識する。
- ・ 最終的に、分析をするようなことは決してしない。MMC合格記述法を練習した結果であり、合格再現答案から別の記述法を分析するようなことはしない。
- ・ 合格答案に感謝することである。それで合格できると示してくれているのである。全問正解や高得点であることや難解キーワードを使用しなくても、十分、合格できる証明をしてくれているありがたい答案であることに感謝する。

MMC模範解答位置づけ

MMC模範解答は、MMC合格3ツールを使用して作成されている。一部、合格因果KMにないキーワードが使用されている場合があるが、それは合格解答（60点以上 or 20%上位確保）には不要であると考え。あくまでもMMC模範解答は、記述復習用にモレの無いキーワード・適度な分かりやすさを満たした記述復習用の最終合格解答と考える。但し、答練で模範解答のようにモレなし・見栄え良し解答を目指しても、実際に初見の事例文に対して書けるようなレベルでは決してない。

そのため、模範解答は、記述復習用の理想として捉え、自身の答練・模試での解答は、合格答案要件（合格点60点 or 20%上位）の常時確保を目指す。

模範解答の難解なキーワードのモレを気にしたりすることは、一切、不要である。

しかし、同じレベルで記述復習していても記述力の向上が見込めないため、模範解答を使用し記述復習をするだけに使用目的を限定する。

いつかは、模範解答が書けるという目標は持たず、合格答案要件の常時確保のため、少しレベルの高い模範解答で記述復習を常時行いという気持ちで取り組む。

また、MMC模範解答は、MMC合格記述FCに従って作成されている。そのため、どの答練事例・模試試験を選んでも記述復習が可能ないように作成されている。

但し本試験では、理解困難な設問・事例文があり、模範解答作成に無理が生じているものがある。その場合、どのように60点維持を図るため、逃げているのかという逃げ方を学ぶ。

模範解答は、記述復習をするだけに使用目的を限定する。

いつかは、模範解答が書けるという目標は持たない。

合格答案要件の常時確保のため、模範解答で記述復習を常時行いという気持ちで取組。

ここまで読み進めた受験生は、即時にMMC合格記述解法を実践しよう。
合格目標は中小企業診断士、学者になるのではない。
神速で合格解答を書く覚悟を決め、最高至高答案は不要と安心しよう。
学者的解答は不要であり、毎日、合格解答の神速記述を意識しよう。
決して悩まず恐れず確固たる事前準備を行い、事例文・設問に惑わされない、
いつもの合格答案をいつでも神速記述で書く練習をしよう。
合格答案は、いつも同じなのだから、事例文・設問で悩むのは無意味である。
考える必要はなく、記述速度を神速化し、単位時間あたりの合格解答を数多く
正確無比で書けば、それで合格してしまうのである。。

他の誰でもものない貴方の中小企業診断士合格を確信しながら。

教材版には、以降に、合格解答型、合格設問 F C、合格因果 K M、合格 F C、
合格記述 F Cが続きます。